

試験Ⅲ

問題 1 日本語の作文のコース修了後に、教師が学習者にインタビューを行った。次に示すのは、コースに対する学習者のコメントである。コメントを読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

<学習者1>

この授業をうけてから、A日本語の文章を書いている間にいろいろアイデアが出て、それを書いて、プリントアウトしてからまた書き加えて、という作業を意識的にやるようになった。授業で日本語の文章を書くときの手順を覚えて、B中国語の文章を書くときも同じような手順でしたら、私にとってはすごく書きやすかった。

<学習者2>

Cクラスメートと作文を交換して読んで評価するというのは、時間の無駄だったと思います。やっぱり私はD先生に読んでもらって間違えた部分を直してもらわないと上手にならないと思うんです。だから、この教室活動はあまり積極的にやらなかったと思います。

<学習者3>

試験のときは、「起承転結」で書こうと思ったんです。「転」の部分がうまく思いつかなかったので、変な構成になるより、E「起承結」で書いたほうが安全だと思ってこの構成で書きました。

問1 文章中の下線部Aのような作文指導の方法を何と呼ぶか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 修辞的アプローチ | 2 ジャーナル・アプローチ |
| 3 パラグラフ・パターン・アプローチ | 4 プロセス・ライティング・アプローチ |

問2 文章中の下線部Bのような効果を何と呼ぶか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1 干渉 | 2 受容 | 3 転移 | 4 般化 |
|------|------|------|------|

問3 文章中の下線部Cのような活動を何と呼ぶか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- | | |
|----------|--------------|
| 1 プロトコル | 2 オートノミー |
| 3 マンツーマン | 4 ピア・フィードバック |

問4 文章中の下線部Dは「言語学習についての信念（ビリーフ）」の一種である。このような信念の特徴として、最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 学習者が漠然とイメージしているもので、指導しても変わらない。
- 2 学習者が固定観念として持っているものなので、指導しても変わらない。
- 3 学習者が漠然とイメージしているものなので、指導によって変わりやすい。
- 4 学習者が固定観念として持っているものだが、指導により変わることもある。

問5 文章中の下線部Eのようなストラテジーを何と呼ぶか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- | | | | |
|------|------|--------|--------|
| 1 回避 | 2 転換 | 3 言い換え | 4 切り替え |
|------|------|--------|--------|

問題2 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

共通語がほぼ全国に普及した現在の日本において、伝統的方言の多くは失われていく傾向にある。では、現在では方言はまったく使用されず、共通語一辺倒となっているのか、ということではない。私的な生活場面において方言が使用され、公的場面において共通語が使用されるというような、方言と共通語を相手や場面に応じて使い分けるバイリンガル状態が広く見られるようになっている。方言が言語体系そのものから、私的な場面で使用される一種の〔ア〕に変化してきていることも観察されている。また、共通語をベースとしながら、A方言を表現上の要素としてアクセサリ的に用いる行動が、若年層を中心に一般化しつつある。

伝統的な地域差が縮小する一方、新しく生まれたり、新しく発見されたりした地域差も存在している。そのような地域差について考える場合、「新方言」「ネオ方言」「気づかない方言」という観点から見ていくことができる。これらのうち、日本語教師が最も注意すべきものは、〔イ〕である。

〔イ〕は大きく、(1)現代において新しく発生した地域差と、(2)現代において新しく発見された地域差の2種類に分けることができる。(1)には、「ジャージ」を「ジャス」、「黒板消し」を「ラーフル」など、学校場面で使用されることばも多い。(2)には日常語が多く、「B共通語と形式は同じだが意味が異なるもの」と「C共通語とは意味も形式も異なるもの」が存在する。つまり、〔イ〕の一部は、共通語形と同じ語形のものを含む上に、〔ウ〕において使用されることがある、ということである。このことを、地域社会に暮らす教師自身が意識していない場合も多く、学習者が地域社会の日常生活において習得し、誤解したまま運用するケースも見られる。これらのことから、日本語教育を行う場合、新しい地域差に関して、教師が最も注意すべきものは、〔イ〕であるとされているのである。

問1 文章中の〔ア〕に入れる語として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 婉曲表現 2 スタイル 3 丁寧表現 4 バリエーション

問2 文章中の下線部Aのように用いられることが多い要素として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 敬語表現 2 文末表現 3 あいさつ表現 4 取り立て表現

問3 文章中の〔イ〕に入れる語として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 新方言 2 ネオ方言 3 伝統的方言形 4 気づかない方言

問4 文章中の下線部Bと下線部Cの組み合わせとして最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 B：元の場所にナオス C：机をツル
2 B：元の場所にナオス C：手袋をハク
3 B：ゴミをナゲル C：若葉がミルイ
4 B：ゴミをナゲル C：味噌汁がシズム

問5 文章中の〔ウ〕に入れる語として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 家庭場面 2 親密場面 3 私的場面 4 公的場面

【正解】

試験 I

問題 1

| | |
|-----|---|
| (1) | 1 |
| (2) | 5 |

問題 2

| | |
|-----|---|
| 問 1 | 1 |
| 問 2 | 3 |
| 問 3 | 2 |

試験 III

問題 1

| | |
|-----|---|
| 問 1 | 4 |
| 問 2 | 3 |
| 問 3 | 4 |
| 問 4 | 4 |
| 問 5 | 1 |

問題 2

| | |
|-----|---|
| 問 1 | 2 |
| 問 2 | 2 |
| 問 3 | 4 |
| 問 4 | 3 |
| 問 5 | 4 |